平成 28 年度 第 2 回日野市子ども・子育て支援会議

議事録

日 時 平成 28 年 8 月 4 日（木）18:30～20:30

場 所 日野市役所 5 階 504 会議室

出席者 委員 亀井委員、水谷委員、東委員、山上委員、岩本委員、細谷委員、半澤委員、小宮山委員、吉富委員、青嶋委員、乙訓委員、佐野委員、岡野委員、赤久保委員、小塩委員

事務局 中田子育て課長、谷子育て課主幹、水口子育て課助成係長、木暮子育て課子育て係長、眞砂子育て課地域青少年係長、高橋保育課長、堀辺子ども家庭支援センター長、正井子ども家庭支援センター課長補佐、大日向子ども家庭支援センター地域支援係長

欠席者 委員 永田委員、原田委員、小俣委員、土屋委員、小林委員

傍聴者 1 名

（開会）

（1. 会長あいさつ）

会長

それでは定刻となりましたので、ただ今より、平成 28 年度第 2 回子ども子育て支援会議を始めます。次第に沿って進めさせていただきます。本日は暑いところ、また、お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。第 1 回目の会議が 5 月 25 日に開催されまして、2 カ月程経っておりますが、今回は第 2 回目でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、配布資料の確認を事務局からお願いします。

（配布書類の確認等について）

事務局

本日はどうぞよろしくお願いいたします。本日の資料につきましては、事前に郵送でお送りさせていただいております。

資料 1 新！ひのっ子すくすくプラン～日野市子ども・子育て支援事業計画～点検・評価について

資料 2 日野市子ども・子育て支援事業計画 特定教育・保育施設、特定地域型保育事業等の利用実績

資料3 日野市子ども・子育て支援事業計画 地域子ども・子育て支援事業実績

資料4 新！ひのっ子すくすくプラン 平成27年度事業実績等一覧

資料5 放課後等の児童のあり方検討会について

資料6 児童扶養手当の加算額が変わります

以上は、事前に郵送させていただいた資料です。

そして本日机上に、内閣府からの子ども子育て新制度に関する冊子「なるほどBOOK」をお配りしております。資料に欠落等はありませんでしょうか。

次に、本日の会議は、「日野市子ども・子育て支援会議条例」第7条第2項に基づき、半数以上の委員の皆様にご出席いただいております。条例に基づき成立要件を満たしていることを報告させていただきます。

なお、本日は傍聴希望がありますので、傍聴を許可したいと思います。会長から委員にお諮りいただけますでしょうか。

会長

本日は傍聴の方がおられます。公開でありますので許可したいと思います。よろしいですね。それでは許可をいたします。

審議に入る前に、前回の会議の時、委員さんから自己紹介をしていただきましたので、前回欠席された委員の方から簡単に自己紹介をお願いします。

※前回欠席の4人の委員より自己紹介あり

会長

それでは、審議事項（1）「新！ひのっ子すくすくプラン～日野市子ども・子育て支援事業計画～の進捗状況について」について、事務局から説明をお願いします。

（2.審議事項）

（資料1 新！ひのっ子すくすくプラン～日野市子ども・子育て支援事業計画～点検・評価について）

事務局

それでは、新！ひのっ子すくすくプラン～日野市子ども・子育て支援事業計画～の進捗状況について説明いたします。

資料1をご覧ください。

まず、計画の進捗状況の点検・評価の概要について説明します。破線で囲んだ部分に、「教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の整備並びに子ども・子育て支援給付及び地域子ども・子育て支援事業の円滑な実施を確保するための基本的な指針」を

記載してございます。

国は、この指針の中で、市町村等に対して、施策の実施状況の点検・評価を行い、結果を公表すること、としています。

破線の囲みの下に2に記載しております、点検・評価の内容といたしまして、詳細については後ほど説明いたしますけれども、国の指針を踏まえ、日野市では、(1)個別事業の進捗状況として、まず、新！ひのっ子すくすくプラン第6章に記載の、教育・保育、地域子ども・子育て支援事業について、毎年度、実施状況の確認を行い、委員の皆様からご意見をいただき、施策の改善等につなげていければと考えています。

合わせて、第5章に記載の163事業についても、実施状況をご確認いただけるよう平成27年度実績と担当課による進捗状況の評価、及び28年度の取り組み取りを一覧にまとめました。後ほど詳細はご説明いたします。

次に(2)として、計画全体の成果についてですが、こちらにつきましては、国の指針の2段落目をご覧ください。

「評価においては、個別事業の進捗状況（アウトプット）に加え、計画全体の成果（アウトカム）についても、点検・評価することが重要である」との記述がございます。この指針を踏まえ、子ども・子育て支援事業計画全体の成果について、次期計画策定の際のニーズ調査において、調査・集計し、計画全体の達成度等を点検・評価を行い、次期計画の策定につなげていきたいと考えております。

(資料2 日野市子ども・子育て支援事業計画 特定教育・保育施設、特定地域型保育事業等の利用実績)

次に、資料2をご覧ください。

計画書の第6章に記載の特定教育・保育施設、特定地域型保育事業等の利用実績をまとめた表です。

こちらの表は、計画策定時点の量の見込みとそれに対する確保方策について、平成27年度はどのような状況であったかを表す表になっております。

ア. の幼稚園・認定こども園については、ニーズ調査をもとに推計した量の見込みに対して、27年度実績では、表に記載のとおり、見込みを上回る受入れを行いました。見込みと実績は乖離していますが、ニーズを満たしているため、特段の問題はないと考えております。

その下、イ. の認可保育園等をご覧ください。

認定区分ごとに、上から、ニーズ調査をもとに推計した量の見込みと、実際の利用希望数、その下に確保方策（計画値）と、確保実績を示しています。

その下の別枠には、利用者数実績と待機児童数を示しています。

表の見方をご説明いたします。一番左に記載の 2 号認定で説明します。

2 号認定は、計画策定時のニーズ調査から、2,250 人の利用希望が見込まれました。

この見込みに対して、平成 27 年度の利用希望数の結果は、2,172 人と見込みを下回る状況です。

一行飛んで、次に確保方策をご覧ください。今後見込まれる保育ニーズに対して、市として、どのように受入数を拡大していくのかを示したのが確保方策になります。こちらは計画書に記載の数値です。

平成 27 年度は、認可保育所等を +30、認可外保育施設を +10、計 40 人の定員拡大を行う計画になっていました。平成 26 年度の実績が 2,074 人でしたので、2,074 人 + 40 人で、合計 2,114 人の受入れ数を確保する計画としていました。

これに対して、その下、確保実績の欄です。認可保育所等で +30、認可外保育施設で +19、計 49 人で、計画の 40 人を上回る定員拡大を行いました。

ここまでの、量の見込みと実際の利用希望数、また、計画上の確保方策と実際の実績を表したものです。

その下の別枠で利用者数の実績と待機児童数を示しています。

平成 27 年度の 2 号認定の利用者数の合計は 2,148 人でした。これに対し、利用希望数は、上段の 2,172 人でしたので、その差が、待機児童数 24 人となります。27 年度の待機児童数は、今は 2 号認定でご説明しておりますが、各認定区分の数値を足しまして、24 人 + 31 人 + 109 人で合計 164 人という結果でした。

次に、その下最下段ウ. では、27 年度の定員拡大に要した施設整備費について記載しています。

27 年度の確保実績の合計は、各認定区分、施設等区分を合計すると、99 人となります。これら定員拡大に要した費用がそれぞれお示しした金額です。歳出の合計は約 150,000 千円、歳入合計は、約 106,000 千円という状況となっています。

以上が、平成 27 年度の保育園等の整備に関する、計画と実績の結果です。

(資料 3 日野市子ども・子育て支援事業計画 地域子ども・子育て支援事業実績)

次に、資料 3 をご覧ください。

資料 3 では、地域子ども・子育て支援事業の 11 事業に関して、ニーズ調査をもとに推計した量の見込みと、実績を示した表になります。

②の学童クラブをご覧ください。学童クラブにつきましては、低学年と高学年の量の見込みが記載されていますが、現在、日野市におきましては、3 年生までの受入れを原則と

して行っており、障害児や夏休み期間については、可能な限り4年生までの受入れを行っている状況です。高学年などの放課後の子どもたちの居場所としては、学童クラブだけではなく、ひのっちや児童館も含め、トータルで支えていくことを日野市としては基本としています。これを踏まえたうえで、学童クラブの27年度の受入れ実績は低学年1,680人、高学年8人となっています。なお、表に記載はありませんが、27年度の夏休みの4年生受入数は48人となっています。

地域的な課題はあるものの、市全体としては、定員数が2,103人確保できていますので、現状ではニーズは満たすことが出来る状況となっています。

その他の各事業につきましては、記載のとおり、いずれも当初見込んだニーズを上回る実績となっています。

(資料4 新!ひのっ子すくすくプラン(第5章163事業)平成27年度事業実績等一覧)

次に資料4をご覧ください。

横で閉じたものになります。これまで説明させていただいた、子ども・子育て支援事業計画の取り組みの状況とあわせまして、資料4の新!ひのっ子すくすくプランの第5章に記載されている各事業につきましても、27年度実績と担当課による進捗状況の評価、及び28年度の取り組みを一覧にまとめました。こちらにつきましては、国の指針に基づく点検・評価の対象ではありませんが、市全体の子育てに関連する施策がどのように取り組まれているのかを確認いただければと考えています。

主な事業の取り組みについて、いくつかピックアップして紹介させていただきます。

まずは、5ページをお開き願います。

5ページ下段の④放課後子ども教室「ひのっち」の取り組みです。右の方に27年度の実績と主管課の評価、そして28年度の取り組みを記載しています。

27年度は、支援会議でも報告させていただきましたが、夏休みにひのっちを4校で試行的に開催しました。また、スタッフの確保という課題に対して、アシストパートナー制度(無償ボランティア)を導入して、多様なライフスタイルに合わせた関わり方を選択できるよう工夫し、スタッフの裾野を広げる取組みを実施しました。また、ひのっちを良く知っていただくということで、プロモーションビデオの製作も行い、事業の周知を行いました。

28年度は、スーパーひのっち「なつひの」を4校から6校に拡大し、実施しています。ちょうど前半を終わり、昨年同様多くの子どもたちが参加している状況となっています。

次に、9ページをご覧ください。

9ページの一番下⑥利用者支援事業の取り組みです。

27年度は、市内子育て関連施設で相談者のニーズに応じた相談、援助を行ったほか、子育て情報サイト「ぼけっとなび」を開設し、必要な情報にアクセスしやすく、分かりやすく情報を提供できる仕組みを構築しました。28年度は、4月1日より母子保健型の利用者支援事業を開始しております。これに関連して、少し飛びまして、12ページをご覧ください。12ページの③母子健康手帳の交付についてです。27年度は1,613件の妊娠届数がありました。28年度からはこれまで市民窓口課や児童館等でも行っておりました、母子健康手帳の交付窓口を健康課1つに集約し、保健師などの専門職が面接相談を実施し、不安の解消などに努めて、妊娠から出産・子育ての切れ目のない利用者支援を行っています。

では次に14ページをお開き願います。

14ページの⑤就学援助と⑥奨学金の取り組みです。就学援助は対象者が若干の減少傾向にあるようです。奨学金については、国もようやく給付型奨学金の創設に関する議論を始めたところですが、日野市においては、現在50人の応募枠を設けて給付型の奨学金を実施しています。

28年度は、要件を満たす高校生すべてに給付する方針で見直しを進めています。

続いて16ページをお開き願います。

16ページの①児童虐待への対応です。

27年度実績にあるように、相談受理件数、相談件数が増加傾向にあります。子ども家庭支援センター機能の強化を図るため職員の増員を行っています。先般、児童福祉法の改正に伴い、急増する児童虐待への対応が強化されることになりました。引き続き児童虐待防止に向けて体制の強化と関係機関との連携に努めて参ります。

少し飛びまして、26ページをお開き願います。

26ページ上から2つ目⑫学習支援の取り組みです。

前回第1回の支援会議でも健康福祉部セーフティネットコールセンターから説明がありましたが、貧困の連鎖を断ち切るため、その対策の1つとして、子どもたちの居場所支援、学習支援を市内1か所で開始しました。28年度は、新たに2か所開設し実施する運びとなっています。あわせて、記載はございませんが、28年度中には、子どもの貧困対策の基本方針を取りまとめる予定です。

最後になります。29ページをお開き願います。

29ページ一番下の⑤特別支援教育の推進の取り組みです。

27年度は、三中に市内中学校2校目となる、自閉症・情緒障害固定学級を開設しました。また、二中には、市内中学校4校目のリソースルーム事業を開始しました。28年度は、中学校のリソースルームの拡充と、小学校に順次、特別支援教室の導入を行う予定です。

その他、163事業の様々な取り組みについて、記載をしていますので、ご確認をお願いします。

以上で、審議事項の説明を終わります。よろしく申し上げます。

会長

ありがとうございました。

大変な事業数と計画でございます。事前に目を通していると思いますが、今の説明を聞いた中で、その進捗状況について、委員の皆さんから質問やご意見をいただければと思います。これが今日の会議のメインになります。ご自分の関連のところ結構でございますので、一言ずつお言葉をいただければと思います。

委員

内容は全部把握できてないですけど、毎年のように、例えば父母連の中で上がってくる保護者の要望としては、安全とセキュリティの問題が心配だという声があがってきます。例えば、38 ページの安全安心のまちづくりの推進のところ、通学路の安全確保、学校防犯カメラとありますが、小学校とか中学校の話が多いかなと思いますが、保育園の保護者もその辺を気にしています。例えば、私立の保育園ではどこもオートロックをつけていますが、(公立保育園も)同じようにして欲しいとか、後は、メールサービスについてですが、小学校に上のお子さんがある方だと不審者情報が入ってくるのですが、保育園ではそういう登録はやってないですよ。例えば、不審者の情報が、一部の人は知っているけれども、それについて教えてもらえるシステムはないのかとか、そういう意見が上がってきています。

後は、4 ページの保育の質の向上についてですが、公立保育園に限るので、日野市内の私立保育園では違ってくるかもしれませんが、毎年意見としてあがってくるのが、保育内容について、例えば、お勉強的なものを入れてほしいという要望です。例えば、音楽で外部から先生がくるとか、リトミックがくるとか。私自信としては、公立保育園の保育の方針だったりとか、公立保育園がどういう方針でどういう良い保育をしているという説明が保護者に届いていないという印象があって、一部の保護者からは一日ずっと自由に遊んでいるだけで、もっと音楽を取り入れたり、リトミックを入れたりしないと、小学校に入る時に、他の子ども達と差がついてしまうのではという心配があるみたいです。

後は、昨年この会議で言ったと思いますが、保育士が両性揃ってほしい、男性保育士をという意見が、父母連からも強く声があがっています。毎年父母連ではアンケートをとっているのですが、また違う形で、こういう理由で男性保育士が欲しいというニーズをとっていこうという話になっています。

会長

ありがとうございます。公立保育園としてどこまで要望に応えられるかわかりませんが、事務局からお話しいただければと思います。

事務局

まずは、セキュリティについてですが、小学校等については、市の全体的な体制の中で通学路に防犯カメラの設置を進めているところであります。保育園の通園路という形ではないですが、保育園は親御さんが一緒にいらっしゃるので、小学校を中心に取り組みを進めております。もちろん、保育園の中や入口等には防犯カメラを設置しております。また、オートロックもしくはラバーキーを使用している民間保育園があるのは確かであります。公立保育園では今のところ、一番混む時間帯ではほぼ開けっ放しになっており、そうでない時間ではインターフォンで確認して開けていますが、ロックの仕方については、今後考えていきたいと思っております。

また、メール配信サービスですが、その声は何度もいただいていますし、小学校ではやっているのですが、保育園としても参加したいところですが、今はシステム上の問題で保育園は入れていないので、これについてもできるだけ、システムの問題を乗り越えてやっていきたいと思っております。

あと、保育内容についてですが、音楽やリトミックとか、お勉強的なことも教えてもらいたいとのことですが、公立保育園もそれなりに保育所指針に基づいた保育の目標を掲げているところですが、ただ、遊んでいるのではないかと思われこともあります。例えば、散歩する場合も、いろんな種類の葉っぱを探してみようとか、どういう虫が近くにいるのか探してみようとか、テーマを決めてやっているのですが、ただ漫然と散歩をしている訳ではありません。自由な遊びの時間もありますが、保育の目標に沿った形で活動をしているので、決して小学校に行くと困るということはないと思っております。例えば、字を覚えることについても、民間保育園や幼稚園は読み書き等を教えていますが、公立の保育園では、読み書きを専門に教える時間はないです。ただ、活動の中で文字に興味を持つような内容で行っていますので、ご心配いただかなくても大丈夫と思っております。ただ、先ほどお話があったとおり、そういう保育園の方針が、親御さんにうまく伝わっていないという点については、反省すべきと思っておりますので、この件については皆さんにわかるように説明をしていきたいと思っております。

最後に、男性保育士の件ですが、日野市の保育士の採用試験は、他の事務職と同じような形で選考をしております。ここでは、当然男女の枠があるわけではなく、男女平等に、試験の成績の優秀な方から順に入っていただくことになっています。今までは、たまたま男性の方が試験の上位に入らなかったという結果で、今のところ男性の保育士は1人も入

っておりませんが、今までも男性の受験者はいて、あと一步というところまでの順位になった方もいました。今年についても優秀な男性保育士が受験をしております。男性保育士の誕生も、それほど遠い未来ではないと思っております。役所としては、男性が何名、女性が何名という形での職員採用は、制度としてできないということをご理解いただきたいと思っております。以上です。

会長

ありがとうございました。

委員

ありがとうございました。保育内容については、方針が伝わっていないというのが私の感触なのですが、結局良いことか悪いことはわかりませんが、保護者はサービス業としての保育園という視点で見るので、そういう意味では、説明をしっかりとくれないとぼんやりしてしまうところがあって、毎年新しい人が入っては出て、入っては出てというのが、保育とか教育の場だと思うので、毎回説明をしていただいた方が、保護者は納得すると思います。

また、男性保育士は、正規職員として採用するのは難しいのかもしれませんが、例えば、同じ能力なら女性を採用するポジティブアクションがありますが、そういう逆の形はできないでしょうか。当たり前のように女性が保育士、というのを打ち破れればと思います。あと、セキュリティの面でも、男性保育士、もしくは、保育士でなくても職員に男性が誰もいない職場に子どもを預けていることがすごく不安だという意見もあるので、例えば、用務員の方でも非常勤の方でも良いので、何らかの形で男性職員に常駐してもらいたいという希望はあります。

会長

是非ご検討いただければと思います。それでは次の委員の方をお願いします。

委員

私もすべてに目を通していないので、学童クラブだけの意見になってしまいますが、先ほどの話の中でも、学童クラブだけではなくて、ひのっちと児童館を含めて、放課後の子どもの居場所について説明がありました。その中で、5 ページのランドセル来館の検討を進めるとのことですが、現状は3年生までの学童保育であるので、4年生以降に関しては、こういうところが受け皿になるのかなと思います。親が家にいない子が一回家に帰ってランドセルを置いて児童館に行くのと、直接児童館に行けるのとでは、だいぶ異なってくる

と思います。ただ、児童館とひのっちと学童クラブ、もちろん「なつひの」の中にも出てきていますが、根本的に質が違うので、3つで支えていただくのはありがたいのですが、違うところをきちんとアナウンスしていただきたいと思います。そうでないと、児童館やひのっちに、学童と同じような感覚で預けてしまうと、いろいろとトラブルのもとになると思います。昨年「なつひの」でもありましたが、その周知を是非もう少ししていただきたいと思いました。ただ、3つで支えていただくことは、うちの子も今3年生なので、来年度以降本当にありがたいと思っています。

あと、今保育園でも話があったのですが、学童連協としては、どちらかというと、質よりもハード面、施設面、システムについての意見がでています。その中でも、今年度から気になっているのが、育成時間の延長です。それに絡めて、指定管理者制度の導入も視野に入っているとのことなので、そこに関してはお互いにいろいろと考えがあるのかなという感想です。

最後に、39ページのメールサービスのところですが、学童クラブもメールサービスは、緊急性の高い情報のみ取り扱っているとありますが、その他の生活情報や学童情報を今後発信するという内容で受け取ってよいのでしょうか。一応学童だよりはあるのですが、保護者はあんまり学童が今月どのようなことに力を入れているか、他の学童がどうかというのが、ペーパーではたまにきますが、こういうメールサービスをもっと活用していただくと今の時代いいのかと思います。例えば、学童だよりもこのメールサービスでなくてもいいのですが、個別の学童でデータ配信を同時にしてもらえれば、目にする人が増えると思います。結局、せっかく出しているのに目にしない保護者がペーパーだと多い印象なので、是非データ配信もしていただけると目に留まる率が高まるのではないかとというのが感想です。以上です。

会長

ありがとうございます。事務局から何かありますか

事務局

児童館のランドセル来館ですが、実は他市だと、学童クラブの待機児童が多く出ているところでは、実施しているようであります。もともと児童館を利用している子どもの居場所がなくなっているという弊害もでてきているという話しも伺っています。委員がおしゃっていたとおり、児童館、学童、ひのっちで児童の放課後を支えることについては、それぞれの事業の特色がございますので、その辺をしっかりと認識しながら、ランドセル来館をすぐに始めるということではなく、いろいろな形でいろいろな事業を展開することで、子ども達の放課後を支えていきたいと考えております。

それから、メール配信の件ですが、もともと学童クラブは学校で使っているメール配信サービスを利用して、緊急時の情報を配信しているところです。中々日常的な情報の提供をここで行うのは難しい部分があると思います。すぐに対応ということではなく、例えば児童館では、ホームページ、ブログ、ツイッターなども行っております。そういった中で、学童クラブが単独で取り組むのは難しい部分はありますが、場合によっては、そういう中に取り組むことができないか、検討していく価値はあると考えております。以上でございます。

会長

ありがとうございます。それでは、次の委員の方をお願いします。

委員

点検評価ということで、27年度新たに実施した小規模保育や認可外保育関係の実施状況がどうであったかを聞きたいのが一つ。計画値としては、もともとすすくプランの中で認可保育所の数値しか挙げられていないのですが、市としては、認可保育所の整備を基本的に進めていきたいということでのよいのか。実際28年度も認証保育を新たに開設していただいて、枠は増えていると思いますが、それ以外はその都度対応していくという形で、計画的に認可外も一緒に枠を考えているのかが一つ。

また、認証保育所の委員の方がいらっしゃるのですが、認証保育が何園も増えてきて頑張っていると思うのですが、認可との差やご苦労があると思っていて、保護者は預ける側なので、枠が増えることはとてもうれしいのですが、現場が大変だと環境的には心配だなと思うので、その点をお聞きしたいと思います。

あと、先に質問すればよかったのですが、保育園のメール配信システムのところで、システム上と仰った言葉の意味を確認したいのですが、公立と私立があるからできないということなのか、もしくは、公立だけでもシステム上難しいのか、その点も確認したいと思います。

副会長

メールサービスについては、何十年も前から入れてくれと言っているが、教育委員会からできないと言われている。

予算の問題もあるのではないかと。

事務局

副会長のおっしゃるとおりで、教育委員会でメール配信システムを管理していますが、

予算的な問題で保育園が乗っかることができないということです。公立と私立ではなく、保育園と小学校に今のところ壁があるということです。

それから最初のご質問の、27年度の小規模保育ですが、27年度は子ども子育て新制度が始まった年で、小規模保育も新たに認可で、制度の1つとして加わったということです。日野市では今まで認可外だった2つの施設について、小規模保育園ということで認可をいたしました。南平にあります定員10名の「ののはな保育園」と百草にあります定員19名の「たんぼぼ保育園」で小規模保育園をスタートしています。今のところ、順調に運営されております。

あと、27年度の認可外といたしましては、「第三暁愛児園」定員40名の認証保育所が設置されております。非常に入園の希望者が多くて、正直断るのが大変だと聞いておりますが、人気がある保育園として順調に運営をしております。

それから、認可保育園を中心に待機児童を解消していくのかというご質問ですが、基本は認可保育園を増やしていくということで、27年度以降も毎年1つか2つの120人規模の保育園を、毎年31年度までに作っていくという計画でありますから、認可保育園中心であることは確かであります。ただそれだけでは待機児童は解消しないのも事実でありますので、小規模保育園や認証保育所、認可外保育施設、あるいは、今年度から始まりました事業所内保育、といった形であらゆる方法手段を通じて、市長が申し上げているとおり、諸力融合して待機児童の解消に努めていきたいと思っております。

認可と認証、あるいは認可外との差ということで、そこが全くないことはないですが、そこはそれぞれの形態によって、いろいろな特色をもってそれぞれ頑張っていると思っております。実際、認可と認証両方入れる状況で、認証を選ぶ方も非常に多いです。認可でなければいけないとは思っておりませんので、皆さんのお力をお借りして、待機児童解消に努めていきたいと思っております。以上です。

会長

認証保育所の委員の方がいらっしゃるの、補足をいただければと思います。

委員

認証保育所についてのお話をさせていただきます。認証保育所と認可保育園との違いは、認証は保護者と直接契約ですので、「私たちはこういうシステムで保育をやりますがいかがですか」と保護者に聞いて、納得してからご入園いただいております。ですから、私たちは体操とか読み書きの先生とかリトミックとか、自由にさせていただいております。また、子ども達はお琴を聞く機会がないと思ひまして、先生をお呼びして、お琴に触れる機会を設けたり、内科の先生が来られた時は、体調を診ていただくだけでなく、身体づくり、

例えばご飯を食べるとお腹に入っていくんだよ、といったちょっとした勉強をしていただいております。

それから、不審者の件については、防犯カメラや自動ロック等、必要な設備投資はしています。

また、男性の保育士さんも採用しております。確かに男性の先生がいると子ども達はとても喜びまして、それなりの良さがたくさんあると思います。ただ、保育園ですので、男性と女性の更衣室を別々に作ってあげたいという希望もありますが、できる範囲で設備投資をしていきたいと思います。

また、私たちは13時間保育なので、お子さんを預かる時間が長いです。お母さんのお迎えも20時くらいになりますので、そんなに長く預かって子どものために良くないのではというご心配もいただきますけど、それなりの軽食を出したり、一生懸命仕事をしているお母さん達と話し合いながら、保育をしております。ただ、お預かりしてお手伝いするのが保育園であって、子育てをするのはあくまでお父さんとお母さんですよ、と強調して話しております。

ただ、保育料が国の制度と違うので、多くのご負担をいただいているのは確かです。教育の面では、5歳児もいますので、自分の名前とかちょっとした読み書き、それから時計は今デジタルが多いので、大きい時計を置いて、遊びながら時間の見方を教えています。小学校に上がる時に、みなさんと仲良くできるように、保育園から小学校に送り出せるような教育をしています。

会長

ありがとうございました。

委員

それでは、運営的に大変ということはないですか。

委員

いえ。それは言ったらきりがありません。それなりの保育をしていきたいという要望もありますし、市からいろいろな情報をいただきながら、大変ではありますが、生き甲斐として頑張っております。

会長

ありがとうございました。それでは、次の委員の方をお願いします。

委員

ひとつお読みしてみたのですが、聞きたいことがたくさんありすぎて、切りがないので1つだけお伺いしたいと思います。

14 ページ⑥の奨学金の項目ですが、まず、前提がわからなかったので教えてほしいのですが、これは高校生に対して、高校を卒業できるように援助するという意味合いでの奨学金だと考えてよろしいでしょうか。

委員

教育部長としての立場でお答えします。実務的な細かい部分はわからないこともありますが、高校1年生から3年生までが対象になります。中には大学を目指す子もいれば、高校にいる間に一生懸命勉強したいという、いろいろな理由があると思います。現実、使い方として制約はかけておりません。一定の条件にかなった学習意欲がある生徒ということで支給をしています。家庭での生活困窮という中で、自分の小遣いがなくて、それに充てて、必需品を自分で買っている人もいるかもしれませんし、定期代に充てているかもしれません。さまざまだと思いますが、高校生が対象であります。

委員

私自信が事実を確認したわけではありませんが、噂で、生活保護を受給している家庭の子は、高校を卒業したら原則就職をなささいという指導をされる、いわゆる大学進学がしにくいと聞いたことがあります。噂ではありますが。この奨学金は、高校を卒業するために援助をする、実際に使い道は制限をかけないとおっしゃいましたが、それは良いと思いますし、高校に通ってなかったら対象にならないのも良いと思います。ここで卒業した後に、例えば、所得制限で、要件が生活保護基準の1.1倍とあります。いわゆる、1割の方は生活保護を受給できる方ということで、必ずしも生活保護を受けているとは限りません。しかし、そういう方が多いのかなという推測で言いますと、奨学金を受けて高校を卒業するまでは良くても、大学に進学させてもらえないことがあるのでしょうか。もちろん成績優秀でないと進学はできませんが、行政として例えば、そういう子に対して、給付型にしる貸付型にしる、何かしら奨学金のようなものを、用意できるできない、するしない、すべきであるべきでない、みたいな観点でどのように考えているかが気になるところで

委員

教育部長としての立場でお答えします。生活保護がどんな指導をしているかは別にして、実態として、奨学金を受けている方で、大学に行っている方はいらっしゃいます。奨学金

を支給するにあたって、生活保護基準なので大学受験のために使えません、ということは一切でおりませんし、ないと思っております。

委員

もしそういうことが実態としてあるのであれば、進学したいから生活保護の申請は我慢することになると、どんどん追い込んでしまうことになるので、そこが気になっていたのですが、あくまで噂でしかないのであれば良いのかなと思います。

委員

健康福祉部長としての立場でお答えします。生活保護は健康福祉部で取り扱っておりますが、むしろそういう意欲のあるお子さんがいれば、それを支援するのが行政としての役割ですので、それはまずないと思います。

委員

安心しました。以上です。

会長

ありがとうございます。それでは、次の委員の方お願いします。

委員

大きく分けると2つについて、質問と要望をお願いしたいと思います。

今の流れで、奨学金の件について、資料を見て胸が痛んだのが、27年度は50名分の予算をつけたところ、要件をクリアして応募している方が76名いて、1.5倍だったということで、単純に26名の方は要件をクリアしているけど、奨学金をもらうことができなかったということでしょうか。

委員

教育部長としての立場でお答えします。27年度までの制度としては、そういう形になります。今年度からは、14 ページ⑥奨学金の一番右側の欄に書いてありますように、90名分というのはあくまで当初の予算金額であります。一番下に、90名以上になった場合は、補正予算で対応するとしておりますので、今年度からは一定の要件に当てはまっている生徒については、全員支給をさせていただいている状況にあります。確かに昨年度までは、おっしゃるとおりであります。

委員

実際に高校に進学して、それが都立であったとしても、月額 1 万円というのが、どれだけの援助になるのかという判断は難しいと思いますが、かかるお金が非常にありますし、修学旅行代等揃えなくてはいけないものもたくさんあります。1 万でも無いよりはあった方が良くと思いますが、要望としまして、国や都の仕事であり、市だけが被るものではないということは解った上で、生活保護基準の 0.5 倍というのは、所得が少ないわけで、実際そういう家庭があるということで、1 万では十分ではないと思うのですが、こういう方達がこれから学業を続けていく、就職できるという、いろいろな支援をこれからもお願いしたいと思います。

それから、もう 1 つなのですが、28 ページの障害のある子どもとない子どもが共に育つ環境づくりについて、これは素晴らし目標だと思います。私は青少年委員の代表なのですが、30 ページ⑨にみんなの遊・友ランドの報告がされています。これは、青少年委員の一番大きな主催行事でありまして、6 月に開催するのですが、2 月から青少年委員を中心に、少年学級親の会、市内大学、支援学校等、様々な方たちと協力し、PR 等いろいろな準備をしてやっているイベントです。今年は 500 人以上の参加者が来ていただいております。とても反響をいただいている、今年は子ども人権メッセージ発表会が七生公会堂でありまして、その中で、みんなの遊・友ランドをテーマにして発表したお子さんがいました。「障害のある子と今まで触れ合う機会がなく、今回初めて参加したところ、八王子特別支援学校の肢体不自由の生徒さんがいて、今まで車いすのお子さんを見たことがなかったので、最初は、車いすだと辛いだろうなとか、このイベントに来て楽しいのかなと思っていたけれど、一緒に過ごしてみて、みんなの笑顔や楽しんでいる姿を見て、自分は偏見をもっていたんだということが分かった」という作文だったのですが、そのように感じてもらえる子どもがいるということは、非常にやりがいを感じますし、また、多くのボランティアの学生さんからも良い経験になったという言葉をいただいて、今後も続けていきたいです。私達の力不足なのですが、これは単発のイベントでして、1 年間に何回も行うことは、限られたメンバーでは難しいことです。障害のある子どもに対する支援というのは、社会に受け入れられることが大きな支援になるのですが、単発のイベントだけでなく、学校間とか学級間とかの特別支援の日常的な交流がもう少し行われればなとも思っています。先生方が各学校で努力されていることは分かっていますし、学校間の交流も、都立の特別支援学校と私立の学校との間では難しいこともある中で、どうしても近隣の限られた一部の学校との交流になりがちだと思います。それから、重度の肢体不自由の子ども達がなかなか普通校の生徒や地域の子どものと話す機会が少ないので、そういう機会をどんどん設けられればいいなと思います。

それから、復籍についてですが、復籍は子どもが希望することによって学校が受入れる

ということですので、ウェルカムというふうに簡単にいかないかもしれませんが、復籍で入りやすい学校づくりを小・中学校で考えていただければ、支援が広がると思います。

これは日野市ではなく八王子市のことなのですが、八王子特別支援学校に通っている重度の障害児の方が復籍の希望を数年前にされまして、公立中学校だったのですが、一旦拒否をされました。拒否の理由が、重度の障害で肢体が不自由ですから、普通のお子さんとは違うため、他の子どもが失礼な事を言って傷つけてしまうかもしれないので、受け入れができないと言われたようです。これは校長先生の言葉だったのですが、学校の中には障害児に対する理解がない方もたくさんいらっしゃるようなので、ここにも教員の指導と書いてありますが、障害のある子ども達に対する理解をもっと持っていただければと思います。復籍については今後も積極的に進めていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

会長

ありがとうございます。それでは、次の委員の方お願いします。

委員

民生委員でございまして、こちらでも何度か赤ちゃん訪問についてお話をさせていただいたのですが、昨年の11月から民生委員が赤ちゃん訪問をするようになりました。日野市における3ヵ月以上1年未満の赤ちゃんがいる全家庭を各地域の民生委員が訪問しているのですが、その際に、資料を健康課からいただいて、それに基づいて各地域に割り当てて訪問しています。顔を合わせて、赤ちゃんが元気だということを確認して話をしたいということで、地域の人間ならではの活動をしています。その時に、児童館のすくすく事業の紹介をしているのですが、もし163事業のうち、他にそういった赤ちゃんを抱えたお母さんに情報を提供することができれば、私たちは各家庭を回っていますので、しかも地域に住んでいるので、1回限りではなくて、その後すくすくで児童館の手伝いもしていますから、そこでも顔を合わせたりしますので、いろいろな情報をいただければ、情報を各家庭に振り分けることができます。私たちは福祉政策課の所管ですが、健康課など、課を超えて共同で情報を出していただいて、協力していただければ、地域の方たちのお役に立てるのではないかと考えていますので、その点をお願いしたいと思います。中々、課を超えると難しいことがあると思うのですが、赤ちゃん訪問は何年か越しの事業であったのですが、そういうことができれば、困っている人の助けになると思います。

副会長

今度健康課に行って、民生委員の要望について課長と相談してきましようか。民生委員

はここで改選があって、全地域欠員なく配置されたので、民生委員と健康課が協力し合えるように話をしていきたいと思います。

委員

別のシフトを組むことになると弊害はありますが、各家庭を訪問しているので、もっとお役に立てればと思っています。

委員

健康福祉部長としての立場でお答えします。ご提案をいただければ、出せる情報であれば出させていただいて、ご紹介いただくのも行政サービスを浸透させる一つの手段でもありますので、ご提案いただければと思います。ただ、個人情報の問題もありますが、ただ、今のお話をお聞きすると、制度の話だと思いますが、内容によってはご相談いただければ対応したいと思います。

委員

制度というか、すくすくとかショートステイとかが利用できますよという情報を各家庭に流したいと思っています。もちろんハンドブックとか皆さんお持ちでしょうが、中を開いて見るよりも、口頭で実際にお話しした方が浸透すると思います。

委員

子ども部長としての立場でお答えします。子ども家庭支援センターが実施している子育て相談や子育てひろばの情報がわかるような資料と一緒に配っていただければ、子ども部の宣伝にもなりますので、是非ご協力いただければと思います。

会長

それでは、次の委員の方をお願いします。

委員

いろいろなお立場で、子ども子育てに関わっている貴重なお話しをいただいたのですが、こういった形で、いろいろな立場の皆さんが行政だけではなくて、いろいろな話し合いをして物事を決めていくのを、行われているかどうかをきちんと見ていくのが一つの役割として参加しております。今日、非常にたくさんの事業があるんだなということと、これを確認している行政も大変だなと思いましたし、私も子育てをしていた人間として、親御さんの気持ちもわかるし、働いている皆さんの意見として、今どういう状態なのかがわかっ

て、皆さんがそれぞれ意見を出す場がないと、お互いがどんなふうに変であるかわからないですし、それぞれの代表でこられた皆さんが、活発な議論をしていただくのも良いことだと思いました。また行政の皆さんも、何かを手厚くすると何かを縮小しないといけない、例えば、人員の問題、予算の問題、そういったものをクリアしていかななくてはいけない中で、サービスの向上を考えていかななくてはならないので、大変だと思いますが、皆さんの意見を受けて、検討していただいて、より良い方向をみつけていただければと思います。

会長

それでは、次の委員の方をお願いします。

委員

お聞きしたいのですが、資料 2 の 2 号認定の待機児童数の 27 年度が 24 名となっているのは、年齢が 3 歳以上ということですか。

事務局

3 歳から 5 歳の保育園児でございます。

委員

2 号認定の保育園のニーズが足りないということですか。

事務局

ニーズに対して 3 歳から 5 歳の保育園の定員が不足しているということです。

委員

そうすると、認定こども園が増えればこの部分は解消されるということですか。

事務局

はい、解消されていくことになります。

会長

ありがとうございます。認証保育園の委員の方、追加でありますか。

委員

認証保育所は費用が高いのですが、保護者に対して日野市から、児童 1 人につき月額

18,000 円の補助が出ています。認証保育所の補助金は、日野市が一番目に導入し、東京都でも有名になりました。今はどこの自治体でも多かれ少なかれ補助金を出していますので、認可保育園の費用に少しは近づいたと思います。これは、日野市のお蔭だと思います。ありがとうございます。

会長

ありがとうございます。それでは、次の委員の方をお願いします。

委員

3 小のひばり学級だとか滝合小のかわせみ学級のような特別支援学級が、すべての小学校にあってほしいなと思います。なぜかという、(支援が必要なお子さんが) 増えているというのが現場で先生方から聞きます。例えば、滝合小のかわせみ学級の数が溢れそうだと聞いています。それは、地域の支援学級をもっていない学校からも来ますので、今かわせみ学級は4クラスあるのですが、旭ヶ丘小学校の子も、滝合小のかわせみ学級に通っています。支援を要するお子さんが増えているので、もっと支援学級を増やしていかないといけないと思います。

放課後で子どもと関わっている仕事をしているので、この子は普通学級にいるけど、もしかしたら特別支援学級にいたほうが伸びるのではないのかと思う子がたくさんいますので、市として、特別支援学級が足りていると思っているのか、増やす余地があるのか、その辺の答えがみつからなかったもので伺いたいです。

委員

教育部長としての立場でお答えします。特別支援学級ですが、特定の学校に通っていただいて、そこに先生やカウンセラーが訪ねて行って授業をするということから、逆に、元々所属する学校に席をおいて、そこに教室を設けて、担当する職員が出向いて対応するという方向にシフトしている傾向にあります。

ただ、潜在的に対処した方が良くと思われる子ども達がいると思います。今、キャパとして線を引くことはないと思います。状況に合った判断をした場合は、判定をする中で、親御さんや本人の意思を反映することになりますが、どこまで増やすことができるのかを、物理的な教室数の問題であったり、対応する専門の先生の人材の問題、今働き手が少なくなっていく時代に、そこに専門性をもった人をどれだけ確保できるかという部分もあるかと思います。ただ、おっしゃっていただいたことは、大きな課題として対応していかななくてはならないと思います。国の仕様の中でやっていくものだと思っていますし、国のモデル事業ということで、そういう方向で試行錯誤していますが、その一端を日野市もモデル

事業として受けている部分もありますので、答えが出るまでは時間がかかると思いますが、なるべくニーズ、必要性をしっかりとくみ取りながら、どんな対応ができるかを常に考えていく必要があると思っております。

会長

ありがとうございました。

副会長

私からも一言よろしいですか。

保育園の補助金についてですが、民間は国（厚生労働省）から、公立は日野市から出ているということです。

5歳児の保育料は、収入によって違いますが、だいたい5～6万円だと思います。そのうち、保育園に入ってくるお金はどこの園でもそれ程変わらないと思います。何が違うかという、公立の場合は、職員の給料、人件費が高いということです。

会長

それはむしろ、公立の職員の給料が妥当だと思います。民間の方がそこに追いついていかななくてはいけないと思います。私の学生も結婚をして辞めてしまったとか、自分の子どもを預けられないから働けない、そういう問題があります。

保育士が安い賃金で抑えられているのはおかしいです。私の学生も地方から出てきて、下宿して働いていますが、生活は苦しいです。そういう状態です。保育園によって状況は違うと思いますが、市にそんなに財源があるわけではないから、結局は国がなんとかしなければなりません。そうしないと保育士のなり手がなくなります。大変な仕事ですから。私は学生に、公務員試験を受けて、公立保育園にいきなさいと言っています。そうしないと生活がやっていけないです。民間が苦勞してやっているのは分かりますので、保護者も含めて、国に対して子育ての施策についてもっと要求していかなければなりません。そうしないと待機児童もなくならないと思います。

これで皆さんのご意見は終了とします。

つづいて、報告事項に移らせていただきます。それでは、報告事項（1）「放課後等の児童の居場所あり方検討会について」、事務局より説明をお願いします。

（3．報告事項（1）放課後等の児童の居場所あり方検討会について）

事務局

それでは、次第3. 報告事項(1) 放課後等の児童の居場所あり方検討会について、ご説明させていただきます。

資料5をご覧ください。

放課後等の児童の居場所あり方検討会につきましては、前回の会議でもお話しさせていただきましたが、昨年度に引き続き、学童クラブ入会児童の保護者の代表やひのっちの関係者等の市民の方々、児童館や学童クラブ職員、子育て課職員をメンバーとして、放課後等の児童の居場所の充実に向けて、ご意見をいただく場として、今年度も開催しております。

今年度は、これまでに6月28日と7月14日の2回開催し、年間では昨年度並みの8回程度の開催を予定しております。

次に、今年度開催した2回の検討会での主な議題と意見、検討会での報告内容についてご説明いたします。まず、(1)の学童クラブ利用者アンケートについて

この学童クラブ利用者アンケートにつきましては、国が定めた放課後児童クラブ運営指針において「学童クラブの運営主体は、その運営の内容について、保護者や子どもの意見を取り入れた自己評価を行い、その結果を公表するように努めること」とされていることから、保護者や子どもの意見を取り入れる手法として、アンケート調査を実施することといたしました。他市のアンケート内容なども参考に作成したアンケート案を作成し、検討会でご意見をいただき、今回添付した形にまとめさせていただきました。

アンケート調査のスケジュールとしましては、ここで調査票を学童クラブを通じて保護者に配布して、9月2日提出〆切で回収をいたします。なお、調査結果につきましては年内に公表できるよう、集計作業を進めたいと考えております。

次に、(2)にあります、学童クラブ育成時間の見直しについてですが、こちらに関しましても、検討会でご意見をいただいております。学童保育連絡協議会さんからは、育成時間の見直しについてご要望をいただいておりますが、学童クラブの保護者の方々の生のお声をお聞きかせいただいております。

主な意見といたしまして、ここにいくつかピックアップし記載させていただきましたが、そのほかにも「子どもは一人帰りや留守番に慣れてくるけど、一年生のうちはやはり心配」ですとか、「お迎えが面倒なので、2年生から延長の利用はやめました」など、様々なまた率直なご意見を伺っております。

現在、平成29年度の育成時間拡大モデルの実施に向け、モデル案策定を進めていると

ころですが、検討会でのご意見も参考にしてみたいと考えております。

次に（3）日野市の児童館について、子ども達の居場所の一つである児童館に関して、児童館のこれまでの経過、基幹型児童館構想、第4次日野市行財政改革大綱・実施計画での位置付けを含めた児童館の現状について、検討会に報告をいたしております。

報告内容についてももう少し具体的にお話しさせていただきますと、①のこれまでの児童館の経過について、昭和46年にひらやま児童館が第1号として開設され、平成21年度までに全部で10か所の児童館が開設され、その内あさひがおか、さかえまち、ひらやまの3か所が基幹型児童館として整備されていること、をご報告させていただいております。

次に、②の基幹型児童館構想について、平成19年にまとめられた基幹型児童館構想は、市内を5つのブロックに分け、ブロックごとに基幹型児童館と地域型児童館を5館ずつ整備し、特に基幹型児童館では、子育て・子育て支援に係る事業の一層の拡充を図り、地域全体の子育て環境を整備していくというものであること。また、基幹型児童館の整備は、現在3館にとどまっていることを説明いたしました。

また、今年度が計画期間の最終年度となりますが、第4次日野市行財政改革大綱・実施計画において、地域型児童館の内、しんめい児童館、ひの児童館、もぐさだい児童館の3館は、民営化を図るとされていますが、ひの児童館ともぐさだい児童館は施設の老朽化の問題等で、民営化が難しく、しんめい児童館について、平成29年度に向け民営化の取り組みを進めていることについて報告をいたしております。しんめい児童館の民営化については、具体的には、秋頃には手続きを進めていきたいと考えております。

また、しんめい児童館の民営化の説明にあたり、児童館2階のしんめい学童クラブについてご質問をいただきましたが、これについては平成30年度に向け、育成時間の見直しや現在難しくなっている学童クラブの職員確保の面からも、民営化を進める方向で検討していることを、説明させていただいております。

今年度開催の「放課後等の児童の居場所あり方検討会」に関する報告は、以上になります。

会長

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご質問等はございますか。

委員

ありかた検討委員会については、私も参加させていただいております。育成時間の見直しについて、1回目の6月28日にグループで意見を出し合ったのですが、内容は今言ってい

ただいた通りだったのですが、その時私のグループでは、夏休みでも親は夏休みではないので、普段の延長よりも夏休み期間の延長について、前倒し後ろ倒しを優先的にしてほしいという意見がでました。

あと、先ほどあったとおり、お迎えが面倒という保護者もいらっしゃいました。あり方検討会の10人もいない保護者の中でもいろいろな意見がでるのですから、千数百人の全保護者からアンケートをとればたくさんの意見がでると思います。今回のアンケートは、自由記述欄がそんなに多くないと思うのですが、市の方からも紙ベースだけでなく、いろいろなところから意見を拾える場があればいいのかなと思いました。

あと、締切日が9月2日というのは何か意味があるのでしょうか。夏休み明けだと回収率が下がるのではないかと懸念があるのですが。

事務局

学童連協さんともお話をされていて、夏休みが終わると来なくなる子もいるので、夏休みが終わるタイミングで締め切った方が、回収率が上がると思い、その日にしました。

委員

わかりました。

委員

一点だけ。学童連協さんが毎年行っているアンケートも今年もやるのですか。

委員

はい。もうすでに配布済みです。

委員

市と両方、やるのですね。

委員

そうですね。同じ時期になります。9月の1週目くらいに回収します。

事務局

締め切りが同じくらいになり、ご負担をおかけして申し訳ございませんが、回収率を考えまして、この時期に実施させていただきました。

会長

それではよろしいでしょうか。

では、次に「児童扶養手当額の改定について」事務局より説明をお願いします。

(3. 報告事項(2) 児童扶養手当額の改定について)

事務局

それでは資料6をご覧ください。児童扶養手当の加算額の増額について、ご説明いたします。

平成28年8月1日に「児童扶養手当法」の一部が改正され、平成28年8月分から、児童扶養手当の第2子及び第3子以降の加算額が変更されました。第2子の加算額は、従来の月額5千円から最大で月額1万円に、第3子以降の加算額は、従来の月額3千円から最大で月額6千円に増額されています。

これにより、支給対象児童が3人いる家庭の手当月額は、全部支給の場合は、従来の50,330円から8,000円増額されて、58,330円になります。

なお、変更後の初めての支払日は、平成28年12月9日となり、平成28年8月分から11月分までの4ヵ月分が支払われることとなります。

今回の改正では、ひとり親家庭の中でも、特に子どもが2人以上いる家庭が、経済的に厳しい状況にあるため、第1子の手当額ではなく、第2子以降の加算額が増額の対象となりました。また、第2子以降の加算額は、定額ではなく、それぞれの家庭の所得に応じて決定することになりました。私からは、以上になります。

会長

ただいまの説明について、ご質問等はございますか。よろしいでしょうか。

次第では、次は意見交換だったのですが、皆さんから様々なご意見を伺い、予定より30分以上オーバーして時間がなくなりましたので、意見交換会は次回以降に回したいと思えます。

副会長

ちょっと質問したいのですが。

会長

それでは5分だけ時間をとります。

副会長

事業等一覧表の評価にA・B・Cとついています。私は食育の委員をやっていますが、部内のA・B・Cと民間のA・B・Cと2種類あって、どちらにするかという権限は委員会にあります。ここは、委員の意見を聞いて、部内の決定にイエス・ノーをとらないで、意見を聞くだけで良いのですか。そのシステムがよくわからないのですが、私たちは、聞き流せば良いのか、もしくは、A・B・Cを評価するのですか。

事務局

今回確認をしていただいた163事業については、国の指針で定められた点検評価の対象ではありません。ただ、子育てに関連する市の施策が、どのように進んでいるかをご確認いただければと考えております。主管課としては、A・B・Cは、順調に進んでいるか、概ね順調か、順調でないか、それぞれの担当課の問題意識ということで記載しております。

副会長

ただ、聞き流す委員会ということですか。平成27年度の事業評価に対して、この委員会は何もないのですか。

事務局

各委員から頂戴した様々なご意見につきましては、今後の事業の見直しや次期計画の策定に繋げていければと思います。

副会長

食育委員会では委員会の方針や評価は公文書で残るけれども、この委員会は何も残らない、ただ言いっ放しということですか。

事務局

食育関連の評価表のようなものではありません。ただ、主旨はきちんと承りまして、議事録にも残し、今後の事業の見直しや次期計画の策定に繋げていければと考えています。

会長

この委員会は市民として、それぞれの代表として選ばれた委員がいろいろな意見を出し合う場であります。その意見を今後の行政に活かしてもらえればと思います。

委員

障害のある子どもとない子どもが共に育つ環境作りという中で、復籍のことや学校のことばかり強調して言ってしまいましたが、これは大変難しいとはわかっていますが、学童クラブ、児童館、ひのっち、すべてのところで障害のある子ども、知的、発達障害に限らず、肢体不自由の子ども達も一緒に遊んだり、一緒にいられる環境作りは大変難しいとは思いますが、それを是非目指していただきたいと思います。特別な専門の職員、指導員等、お金がかかることかもしれませんが、共に育つというのはそういうことであるので、是非希望している子どもが入れるようなことを考えていただきたいと思います。

委員

健康福祉部長としての立場でお答えします。健康福祉部としては、今年の4月から、障害者差別解消法が施行されまして、行政としても、合理的な配慮をしなければいけないことが義務付けられました。ただ、一辺にはなかなかできませんので、努力をしなければならぬということで、行政としても障害をお持ちの方たちと意見交換の場を設けまして、この8月末から、どういうところから進めていこうか、どういう配慮をしなくてはならないのかを、障害に対する理解も含めまして、全庁的な取り組みとしてやっていきたいと思っています。すぐに変わるかはなかなか難しいですが、そういう方向で進めていきたいと思っています。

委員

今日の趣旨は点検・評価の進捗、チェックの会議だったと思いますが、13事業の中で当初から気になっている11番目に書いてある利用者支援の取り組みが、今後どうなっていくのかとても興味があるところです。163事業の日野市の取り組みを含めて、どのように市民にお知らせするのかを考える場であると思っているので、先ほど民生委員さんから話があったとおり、赤ちゃん訪問や母子健康手帳を配布する時に機会があるので、今まで子ども部の中で専門委員を置かなくてはいけないと考えていたかもしれませんが、ここは縦割りではなく話せる場なので、こういうところで話せるようになったら良いなと思います。専門部会も分科会として作れるようになっていますが、今年は作らない計画だと思いますが、みんなで話せたら良いなと思います。

4番の子育て広場のところの数字も、計画値とはかなりの乖離があります。倍以上の人数がきているのに、現場は大丈夫なのかと心配しています。こういう点も話し合いたいと思いました。

会長

ありがとうございました。貴重な意見がたくさんありましたので、今後の施策に活かしていただければと思います。

以上で、本日の議題は終了しました。最後に、次回の日程の確認を、事務局からお願いします。

(4. その他)

事務局

ありがとうございました。次回の日程につきましては、当初のスケジュールでは9月29日を予定しておりましたが、本日たくさんの貴重なご意見をいただきましたので、9月下旬を見送りしまして、次回は11月24日（木）の午後6時30から、505会議室で開催をさせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

会長

今回は、9月の開催を見送り、11月24日の開催ということで事務局から提案がありましたが、よろしいでしょうか。

それでは、本日の会議を終了します。お疲れ様でした。

次回日程

日時：平成28年11月24日（木） 午後6時30分～午後8時30分

場所：「505会議室」